

本興寺だより

令和三年
三月
第二一九号

「わざわざいは口より出でて身をやぶる。さいわいは心より出でて我をかざる」(宗祖・重須殿女房御返事)
冬の大雪も春の訪れと共に消え、本堂の屋根下の雪を残すのみになりました。雪という字は「すすぐ」とも読み、汚れを洗い出す意味があります。「雪辱」とは「辱(はじ)を雪(すすぐ)こと」。以前に被った恥をすすいできれいにすることです。
人生には悩みが絶えませんが、その都度それを淡々とすすぐ(雪)気持ちが大切なのです。自分の心の雪解けを迎えるためには。

一年は春から始まり、一日は朝の日の出から始まります。日の出る方位の「東」とは、**日が立ち木の中程まで昇ったさまを表わした字**でもあります。

一日に昼と夜があるように、人生にも明るく楽しい時と暗く辛い時があります。**人は身(行動)と口(言葉)と意(心)で善と悪の行いをつくる**といわれます。その行い業が自分の人生を左右するのだということです。この三業(身口意)で人間関係で一番身近に

志の疎通を図る上で大切なことですが、会話の多くは噂話や無駄話に陥りがちです。

噂や雑談を言いあって憂さ晴らしすることがストレスの解消になると信じて疑いませんが、**仏様は、これらの噂話や無駄話は、その中に入り込むと自分の心をどろどろ汚していくことになる**といわれます。人の噂話は、当人のいないところであるもので、内容は概して陰口、悪口、批判なのです。人は他人の噂をして知り聞いたりする時は不思議に自分の悩みを忘れて目が輝いています。

テレビ番組でも、有名人のスキヤンダルや私生活を、これでもかと思うほどしつこく、長く、公共の電波を使って無駄話を垂れ流しています。

人は他人の噂が好きで異常な関心を持ちたがるのです。日頃の生活でも自分の胸に留めておくことが出来ないし他人に話したくなるのです。「**ここだけの話**だから内緒にしてね」と言いながら、**ここだけの話**の**はずが次から次へと広がっていく**のです。皆「**ここだけの話**」と言いながら。

最初に言った人は単なる真偽不明の噂として軽く言っても、次に聞いた人からは確かな**ニュース**として広がっていきます。

相手の良いことならともかく、誤った噂や他人を傷つける話であれば、不用意に広めた人も自身の魂が汚れ、知らず知らずのうちに大きな悪業を作っていくの

影響されるのは**口(言葉)**です。相手からの一言は自分の心に安らぎを与えることもあれば、突き刺さることもあります。他人に言う言葉も同様です。**言葉は寶石にもなり凶器にもなります**。



人のトラブルは口の禍が多いのです。冒頭の文のようにその言葉が己自身を蝕むことになるといわれます。オリンピックの開催の判断も憂慮される昨今、先月元総理の**一言(失言)**で国内のみならず海外にまで大変な影響を与えました。日頃心に思っていることがつい口に出たのかもしれない。社会的に重要な立場の人だから問題になりましたが、**本来、誰でも「自分のほく言葉」はそれに変わらぬ重みと影響があることを忘れてはいけません**。

社会や周囲から信頼を得るには、こつこつと地道な努力が必要ですが、**失言・暴言・放言は一瞬にしてそれまでの信頼を無くし人生を狂わせます**。

奈良時代の万葉集では、**言葉は「言羽」ともいわれました**。吐いた言葉は羽がついたように浮かんで立ちこちへと飛んで広がっていくからです。噂話のように善いことならともかく、**悪しきことは自分の悪業として魂に刻まれる**のです。私達は何時でもどこでも会話を楽しましますが、会話自体はいろいろな情報交換や意

だと云われています。

人は相手の印象をまず相手の発する言葉から判断します。「あの人は優しい人だ」「あの人はきつい人だ」等、言葉から受け取るその人への好き嫌いの感情は、一度思い込んだらなかなか判断を変えられないのです。**おとなしい人でも、好意的な人は「落ち着いた良い人」になり、嫌いな人は「陰気なはつきりしない人」**となるのです。



交わす言葉は災いも幸せも引き寄せるのです。**言葉は心を見せる鏡であります**。何時も言葉に真心を乗せて語れるように、己の心を律しなさいと云われています。真心からの言葉は幸せを招き、不誠実な心からは災いを引き寄せるのだと。

白紙の上の黒点に、レンズで日の光を集めれば燃えてなくなります。**心にある黒点(不満な心)は、神仏の教え(光)を射ることによって消え、功徳を頂ける**のです。真心は感謝の念を持つことから生まれます。「感謝」の「謝」は自分の心に、そして相手の心に、言葉を通して「射」し神仏の光が差し込むことを示した字なのです。「**功徳**」とは、悪い心を滅するを「**功**」と云い、善き心を生ずるを「**徳**」と云うとあります。**神仏の功徳を受けられるように、己の心の功徳を積み、心からの幸せをつかみなさい**と云われています。

合掌 本興寺住職 中谷 聰 秀